

神奈川県拠点病院調査：聖マリアンナ医科大学病院てんかんセンター

研究分担者：太組 一朗 聖マリアンナ医科大学脳神経外科
聖マリアンナ医科大学病院てんかんセンター

研究協力者：石丸 貴子 聖マリアンナ医科大学病院てんかんセンター

研究要旨

三次医療圏内における効果的なてんかん診療の均てん化に向けた課題抽出を行うため、神奈川県てんかん拠点病院において、2017年～2019年における受診患者調査、長時間ビデオモニタリング件数、てんかん外科手術件数、てんかん相談内容、紹介患者内容を調査した。調査の結果より、診療拠点機関体制の有用性について検討を行った。

A.研究目的（てんかん診療拠点病院調査）

てんかん診療拠点を数・質ともに更に充実させるため、患者、医療機関や行政にとってのてんかん診療拠点体制のメリットを明確化する必要がある。この研究では、当センターの稼働状況、受診患者数、紹介患者状況を調査し、効果的なてんかん診療の均てん化にむけたてんかん診療拠点病院運用指針（てんかん拠点病院運用の手引き）作成の基礎資料とする。

B.研究方法

てんかんセンターを受診するてんかん患者の通常診療によって得られた情報を使用し、2017年～2019年における受診患者数、長時間ビデオモニタリング件数、てんかん外科手術件数、紹介患者内容を調査する。

（倫理面への配慮）

本研究は診療情報の収集によって得られた情報のみを使用。同意取得はポスターで公開し患者より申し出があった場合は研究対

象より除外する。本研究は聖マリアンナ医科大学倫理委員会において承認されている。

C.研究結果

当センター（精神神経科、小児科、脳外科、脳神経内科）外来患者数（病名で抽出・延べ人数合計）2017年 16520人、2018年 17126人、2019年 16830人、（病名で抽出・月ごと実数合計）2017年 13044人、2018年 13793人、2019年 13800人、（てんかん指導料で抽出）2017年 4500人、2018年 4984人、2019年 5034人。入院患者数（病名で抽出）2018年 284人、2019年 359人。てんかん外科手術 2017年度 15件、2018年度 46件、2019年度 45件。長時間ビデオ脳波モニタリング検査 2017年度 10件 2018年度 65件 2019年度 64件。てんかん相談件数 2018年度 100件、2019年度 262件。

2018 年度てんかん相談・対応内訳 (100 件)

相談内容	件数
受診相談	69
てんかんの病気・治療について	7
紹介・転院相談 (医療機関から)	4
制度利用等福祉関係相談	4
症状への対応	9
その他	7

対応	件数
情報提供等相談のみ	40
自病院受診	40
他の医療機関へつないだ	16
その他	4

2018 年度紹介患者詳細 389 件
(県内 309 県外 80)

医療圏		県外	
横浜北部	51	愛知県	1
横浜西部	12	青森県	3
横浜南部	13	茨城県	3
川崎北部	133	大阪府	4
川崎南部	47	沖縄県	2
横須賀・三浦	10	京都府	1
湘南東部	3	静岡県	6
湘南西部	8	滋賀県	1
県央	12	千葉県	1
相模原	17	長野県	2
県西	3	広島県	1
		北海道	3
		宮城県	1
		宮崎県	1
		山口県	1
		山梨県	1
		新潟県	1
		東京都	46
		海外	1

D. 考察

当院は 2017 年 10 月よりてんかんセンターが稼働し、2018 年 4 月より神奈川県の特設拠点病院として指定を受けている。受診患者数について外来延べ患者数は 2017 年～2019 年の間でさほど変化は見られないが、より実数に近いてんかん指導料を算定している患者を抽出すると年々増加していることがわかる。長時間ビデオモニタリング、外科手術に関しては、2018 年度に人数を大きく増やしているが、設備や人員に限りがあり、2018 年から 2019 年にかけて横ばいとなっている。てんかん相談は 2018 年度から実施しているが、拠点病院への受診相談が最も多い。対応内容を見ると、相談から受診へつながっている例が多く、また拠点病院以外の県内のてんかん専門医へつないでいる例も多い。2019 年度は 2018 年度の 2 倍以上の相談があり、県内に拠点病院の認知が広がっていると言える。拠点病院への紹介患者に関しては、拠点病院のある川崎北部からの紹介が最も多く、次いで横浜北部、川崎南部となっている。拠点病院のある川崎市内と近隣の横浜市内からの紹介が多数を占めるが、相模原地区、県央地区からの距離のある地域からの紹介も来ている。県外からは神奈川県に隣接する東京都からの紹介が多い。

E. 結論

てんかんセンターが稼働し、てんかん拠点病院の指定を受けてから、当院のてんかん患者の受診数は増加している。また長期ビデオ脳波モニタリングの稼働状況、手術の実施状況から、難治に経過しているてんかん患者への専門的な医療が提供されている事がわかる。相談窓口を設置することにより、適切な診療が必要な患者への情報提供が可能とな

っている。拠点機関へ紹介元を見ると、県内の広い地域から紹介を受けており、診療連携が広がりつつあることがわかる。今年度調査の結果から当院は神奈川県のとんかん診療の核となる存在である事が確認でき、この調査は診療拠点機関体制の有用性を検討する根拠となりうる。今年度、データの収集が不十分であった内容に関しては、引き続き調査が必要である。

F.健康危険情報

無し

G.研究発表

1.論文発表

無し

2.学会発表無し

H.知的財産権の出願・登録状況

無し

1.特許取得

無し

2.実用新案登録

無し

3.その他